

# 議 会 広 報 広 聴 委 員 会 記 録

令和3年8月25日（水）  
13時27分～15時2分  
全 員 協 議 会 室

【出席者】 三浦委員長、西川副委員長、  
村武委員、川上委員、小川委員、野藤委員、笹田委員、芦谷委員、  
佐々木委員、澁谷委員

【事務局】 近重係長、小寺書記

---

## 議題

- 1 はまだ議会だよりVol. 63について…………… 資料1
  - (1) ページレイアウト
  - (2) 掲載記事及び原稿提出締切
  - (3) その他
  
- 2 はまだ議会だよりminiについて…………… 資料2
  - (1) 第8号掲載内容及び原稿担当
  - (2) その他
  
- 3 はまだ市民一日議会の反省について…………… 資料3
  - (1) 具体的に意見のあった内容の整理
  - (2) その他
  
- 4 地域協議会との意見交換会について（資料なし）
  - (1) 今後の方針
  - (2) その他
  
- 5 その他

【次回委員会開催予定日】 令和3年9月16日（水） 13：30～ 全員協議会室

【議事の経過】

[ 13時 27分 開議 ]

三浦委員長 議会広報広聴委員会を始めたい。出席委員は10名で定足数に達している。本日は配信のとおり、その他含めて議題5点ある。議題にのっとって順に進めていきたい。

1. はまだ議会だよりVol. 63について

(1) ページレイアウト

三浦委員長 小寺書記から説明をお願いします。

小寺書記 ( 以下、資料をもとに説明 )

三浦委員長 今説明いただいたレイアウト案について、ご意見等あれば伺う。ページ数は特に増えるわけではないので、決算の情報が限られてしまうのが少し残念ではあるが、ほかを減らさないとすればこうせざるを得ないかというところで案を作成している。

野藤委員 毎回このように非常に厳しい状況。これは致し方ない部分だと思うので、これでよいと思う。

三浦委員長 ほかにあるか。特段ないようであればこれをベースに紙面作成を進めていく。今配信されたのは昨年度の同時期のものである。

小寺書記 個人一般質問が3名減るということで、1ページ弱空くのでそこで決算について重点的に触れることはできるかと思ったのだがいかがだろう。

三浦委員長 それでよいと思う。これをベースに進めていくということによりよいと思う。

(2) 掲載記事及び原稿提出締切

三浦委員長 ご説明をお願いします。

小寺書記 ( 以下、資料をもとに説明 )

三浦委員長 今説明があった点についてご意見、ご質問があれば伺う。63号の緑の色がかかっている部分については9月14日の15時締め切りで進めたいと思うがよろしいか。

( 「はい」という声あり )

ではそのように、該当委員にはご協力をお願いします。委員会活動レポートの中身については今ここで協議するか。

- 小寺書記                    はまだ議会だよりm i n iの掲載事項と少し被ってくる部分もあるので一緒にごらんいただきたい。特別委員会と常任委員会でこういったことがあるかと上げたところである。どの内容を委員会活動レポートで扱うかと、10月1日発行のm i n iに使うか、併せて勘案していただければ。よろしく願います。
- 三浦委員長                今配信したのが議会だよりm i n iの10月1日発刊に関する資料なのだが、その上段部分で掲載項目のところに、各委員会の最近の活動を列挙しており、この中から次号用に幾つか書いてはどうかということだが、いかがだろうか。
- 川上委員                    せっかく地域協議会との話し合いをしているので、これも入れていただければと思う。これを63号に持ってくる形になると思うが。
- 小寺書記                    地域協議会との意見交換会について、9月1日発行予定の62号に記事を入れる用意がある。写真と、こういった意見があったという形。
- 三浦委員長                ほかはいかがか。少し個人的な意見にもなるが、議会改革の特別委員会でいろいろと今、活動の中身について一つずつ見直しが進んでいるという報告を受けている。そうしたところを、議会全体でこういうところが変わっていく部分を、例えばまとめて特集的に、委員会活動レポートのところで紹介するのもどうかと思ったのだが。どうだろうか、まだそういうタイミングではない感じか。
- 西川副委員長              改選前にまとめている事項、引き継ぎ事項もあるのだが、内容的にどうだろうか。読者受けしないというか。ほかになければそれでよいかと。
- 三浦委員長                ほかにご意見は。
- 小寺書記                    はまだ市民一日議会（以下、市民一日議会）をやった関係で、それぞれの委員会で検討状況等があると思う。それについては発言者には10月頭にお戻しすることになっているが、対外的にはまだ特にないので、そういうくくりで、市民一日議会をやったがその後の協議状況というところで、委員会活動レポートなりm i n iなりでやってみるのも一つかと思ったがいかがだろうか。
- 三浦委員長                確かに、市民一日議会は今各委員会で所管事務調査が行われていて、発言者にはお戻しする機会がもう予定されているが、その他の市民には広報をどういう形で、というのは確定しているものがないので、この委員会報告の中でそれぞれの所管事務調査の中でこういう段階にある、というのをお戻ししてもよいかとは思いますが、皆はど

うか。

川上委員

それは所管委員会ごとにとということか。

三浦委員長

表現方法はどうかというのがあるが、各委員会に振られていて、そこでの対応が徐々に戻ってきているところなので、その段階をお戻しできたらよいかと。お戻しする文言が各委員会から上がってくるので、それを列挙する形でまとめるのも、方法としてはあるかと思う。

野藤委員

それは掲載内容の上の、各委員会の分でなくて、議員のところ。議員定数については。ほかの委員会では全部、所管事務調査で確認だけになっているが、戻すところまでは。確認して、発言者に戻す内容までを書くということか。

三浦委員長

発言者の方に、改選前のタイミングでそれぞれの所管事務調査の状況等、対応状況をお戻しすることになっているので、それと同様のことを記載するイメージか。

野藤委員

理解した。

三浦委員長

どうか。日程など問題ないか。

小寺書記

市民一日議会の関係でお戻しいただく締め切りは9月20日くらいに設定していたと思うので、原稿に落とし込むのは可能だと思う。

三浦委員長

そうしたら、現段階の委員会の開催状況を見ると、市民一日議会の発言内容を所管事務調査で確認しているところがほとんどなので、それをお戻しするという事でページを使ってよろしいか。

( 「異議なし」という声あり )

ではそのようにさせていただく。そのほか先ほど説明のあったスケジュール等について質問等あるか。

( 「なし」という声あり )

では提示した発行日程に従って作業を進めていきたい。

話が戻るが市民一日議会の、現在の審議状況について、取り扱い状況についてのページはどうでしょうか。こちら側で各委員会から出てきているものをまとめて掲載していくということで、特段それぞれの委員に振らずに作成する流れでよろしいか。

( 「はい」という声あり )

ではそのようにさせていただく。ほかに。

小寺書記

読者アンケートの内容について、また皆にお考えいただければ。前回の委員会のときには総務文教委員会から依頼があったものを掲

- 三浦委員長 載した。例えば改選があるので、今後の浜田市議会に期待することは、というイメージでもよいかもしいが、お考えいただければ。ご意見いかがか。ちょうど改選後のタイミングの読者アンケートになる。議会改革の特別委員会からは、浜田市議会全体に対してどういことを望まれるかという、少し大きな問いかけになるが、どういことを聞いてほしいというリクエストをいただいているが、何か補足があるか。
- 西川副委員長 現委員長の思いが詰まった内容である。改選後のタイミングなので、今後の議会に期待されることという内容でもよいと思う。
- 三浦委員長 ほかにはいかがか。今、副委員長に補足いただいた内容を踏まえると、改選後に新しい顔ぶれになって今後の4年間の議会活動に期待されること、望まれることは何かという問いかけはどうかという質問になるが。それでいこうか。ではその設問で。
- では議会改革の特別委員会にも、出していただいた要望を踏まえて次回の議会だよりで取り扱わせていただくという戻しはしておこうと思う。
- ほかにスケジュール等についてあるか。よろしいか。
- ( 「はい」という声あり )

### (3) その他

- 三浦委員長 63号についてその他、皆から何かあれば。
- ( 「なし」という声あり )
- では議題1については以上とさせていただきます。

## 2. はまだ議会だよりminiについて

### (1) 第8号掲載内容及び原稿担当

- 三浦委員長 まず小寺書記から説明をお願いします。
- 小寺書記 ( 以下、資料をもとに説明 )
- 三浦委員長 まず11月1日発行の9号、今話があったように改選直後のminiなので本誌が出る前に速報として新しい顔ぶれを紹介する紙面で、Web版で紹介したいという案を持っているがどうか。よろしいか。
- ( 「異議なし」という声あり )
- では、mini9号についてはそのように作成を進めたい。多分スペース的にはそれだけになる。

- 西川副委員長 戻ってmini8号、10月1日号になる。1周年になった、ご協力に感謝する。これについて中身を協議したい。掲載項目の委員会活動の部分だが、それぞれ所属されている委員会の中でこれは報告したいといった自薦などあれば、積極的にお願いします。ほか委員会の活動をぜひ掲載しようという提案でも構わない。いかがだろうか。
- 三浦委員長 1周年とのことなので、議会広報広聴委員会のminiや議会だよりの改革、市民一日議会など、取り組みをまとめて、例えば色は今SDGsカラーになっているがこの説明もされていないと思うので。そういう広報の取り組みを1年振り返ってみてはどうか。
- 川上委員 うなずかれる方が多い。確かに振り返るよい機会かと思うので、振り返りをぜひ執筆したい方がおられれば。もしなければ正副委員長で書かせていただいてもよろしいか。
- 三浦委員長 ( 「はい」という声あり )
- 川上委員 では当委員会として取り組んだことを総括として、我々のほうで少し振り返りながらまとめておきたい。
- 三浦委員長 議員のつぶやきについてはどうか。前は芦谷委員に書いていただいた。どなたかご協力いただけないか。食べ物シリーズでいくか。最近、旭のナシが出ているがナシ好きな方とか。
- 川上委員 はい。
- 三浦委員長 では、つぶやきの中身は川上委員とまた相談しながらということで、ご協力感謝する。
- 川上委員 議長日誌は議長とも協議いただき、トピックスとして掲載したいという希望を踏まえて選定したい。

## (2) その他

- 三浦委員長 miniについては以上としたいが、そのほか皆からあるか。よろしいか。
- 川上委員 ( 「はい」という声あり )
- 三浦委員長 では議題2を終わる。

## 3. はまだ市民一日議会の反省について

### (1) 具体的に意見のあった内容の整理

- 三浦委員長 開催後にアンケートを取っている。そのアンケートは発言者の方々と傍聴者の方々に記載いただき、そのご意見を項目ごとにまと

めている。また、議員各位からも振り返っての意見をいただいております、アンケート項目に基づいて各議員から出ている意見も振り分けている。この課題等の整理について小寺書記から補足はあるか。

小寺書記

( 以下、資料をもとに説明 )

三浦委員長

では順番に(1)から振り返っていきたい。各委員からはこの発言者の方々、傍聴者の方々のご意見、並びに議員各位からいただいた意見に対して改めてどのように捉え、改善点の提案も含めて感想をいただいきたい。

まず(1)議員の質問について。ここは結構ボリュームがあって、いろいろな議員の質問を聞きたかったという声や、議員からの意見では一人一人の質問時間が決まっていなかったため、発言する議員が1人の発言者に対して1人や2人になってしまったのがもったいなかったのではという意見があった。その発言の、質問の問いかけ方に対して、意見を言っているとどうしても主観を述べるということで、発言時間が長くなってしまいうので、そこは工夫が必要ではないかという意見。あるいは発言者の意見に対して自分はこう思うということ逆を逆に議員から言ったほうがよいのではという意見もあるように見ている。皆はどのように捉えているか伺っていききたい。

野藤委員

参加された方があそこに立つと非常に緊張されて頭が真っ白になるので、我々がいつも執行部に問かけるような質問をすると、食い違いが出るので、議員が意見や質問をするのであればシンプルに、1項目だけぱっと答えられるようなものにしたほうがよい。前置きが長いと参加された方は戸惑われるように思った。議員側がある程度共通認識を持ってやらないと思った。特に子どもはそうだった。

三浦委員長

発言内容のここにもあるが、意図を確認するといったシンプルな質問。あまり議論にならないような形のほうがよいのではという意見。ほかにはいかがか。

川上委員

どちらにしても発言者のご意見を伺う姿勢は常に持つておかないといけないことである。そのご意見に対して、質問は先ほど言われたようにシンプルでよいと思うが、反論、反問的な質問は控えるべきである。

三浦委員長

ほかにはいかがか。皆初めての市民一日議会だったので、それぞれに思われたことがあると思うので、次にぜひつながるような意見・提案をいただきたいが。

- 川上委員 　　今回は17人だったので時間が足らなかったが、次回からは10名なら10名しっかり決めて。若干質問時間を長く取ってもよい気がする  
ので、その点を検討いただければ。
- 三浦委員長 　　公募の受け付け方法にも関わってくるころなので、時間をきちんと確保できるような。そこともかかわってくるが応募人数も再考して決めて、発言時間の確保をきちんとする。ほかには。
- 小寺書記 　　川上委員の発言にあったように、今回の質問時間のはかり方については、発言が終わってから通しで5分間はかるようにしていた。議会で議員が一般質問されるときは、発言している時間だけ計測している  
ので、発言時間の確保の仕方も、次の項目にはなるが検討いただきたい。
- 三浦委員長  
澁谷委員 　　ほかにも議員の質問に対してはないか。  
基本的に質問は議会広報広聴委員会の委員が、理解を促すような質問を少しするだけでよいのでは。全議員にさせると認識や理解度  
に開きがあるのでこういう結果になったので、当委員会の委員が中心になって、より一層わかりやすくなるための質問をするというか。その中で、執行部にも一緒に聞いてもらって少しは執行部の意見も聞いてみるなど。その辺は少しやり方を変えたほうがよいのでは。
- 三浦委員長 　　ほかにも執行部に確認することがあってもよいのではないかという意見も出ていたので、そうしたところもどういう仕組みでやるのがよいのか、併せて次回の検討事項にしっかり送っておきたい。  
澁谷委員からもあったが、発言者の理解を促すにとどめる程度の質疑。これは野藤委員が冒頭に言われたところと少し重なるかとも思うが。やりとりが始まるとどうしても時間が長くなってしま  
うので、そうしたところの工夫をしながら、あくまで発言者の発言意図をしっかりと酌み取るスタンスで議員が質問するのがよいのでは、という意見が多かったように思う。次に進むがまた何かあれば後から発言をいただく。  
次に発言時間、質問時間についての項目である。5分という時間だが、通しでの5分だったのでそれを少し短く感じられた、そういう意見が多いように見受けられる。時間について皆どのように思われたか。改善点等含め意見をいただきたい。
- 川上委員 　　これからも初めて発言される方がおいでになると思うので、7分、8分、10分というのは下げたほうがよい。5分間にまとめていただい



て発言いただく、それを我々が聞かせていただく形が一番よいと思っている。したがって発言時間は5分でよいと思う。

野藤委員

私も発言時間5分でよいと思う。原稿用紙にある程度まとめると5分でも割といけるので、聞くほうも集中して聞けるかと思う。

三浦委員長

今2人から5分で十分ではないかという意見が出たが、逆に5分では短いとか、具体的な分数などの提案があれば伺いたい。たくさん出していただいたほうが改善につながるので、ぜひ発言をいただきたい。意見がないということは、5分が適当ではないかという総意か。であれば発言時間、質問時間については、通しで5分計るかどうかは配慮するにしても、それくらいのボリュームで十分、発言の中身を伝えていただける長さではないかということで、適切だったという振り返りをしたということでまとめておきたい。

3番目、応募の受け付け方法について。これは議員からの意見が少し多かったように思っている。初回だったということで、当初予定していた10名を大幅に超える参加申し込みがあり、急遽当日17人、結果的に多くの方に発言いただくことになった。議員各位にはご理解をいただいたということでこうした対応もできたのだが、2回目以降開催する際には、ある程度のルール内で進めていく必要があると思うので、1日で開催するのか、あるいはここに意見が出ているように2日間かけてもよいのではないかと。応募の受け付け方法、応募する人数等含めて、振り返ってのご意見をいただきたい。学生と大人を別の日にしてはどうかという意見もあった。

川上委員

委員長が言われたように、学生や一般社会人など、年代を分ける方法もあるのでは。年に何度もするならそれを分けてもよい。ぜひ考えていただければ。

村武委員

私も同じ意見だが、今回17人で多かったのだが大人や学生など結構バランスよかったと思う。それは17人という数字だったからバランスがよかったのかとも考えられる。バランスを考えると、学生と大人を別の日にすることもよいと思う。

野藤委員

最初は10人と決めて、当初は10人に満たなかった、締め切りが近づいてきても応募が少なかったため、議員が相当声をかけた。特に学生に声をかけたと聞いた。それによって人数が増えたが、広く募集するよりもある程度ターゲットを絞って、学生なら学生という形でされたほうがよいのかとも思っている。初回だから様子見という

ことで、応募状況を見ながらされたのだろうが。次はある程度ターゲットを絞ったほうがより参加が見込めるかと思う。

三浦委員長

そうすると、1回の人数をある程度絞りながら学生を対象にするとか、一般を対象にするとか、対象者を分けて複数回に分けて開催するのが運営上望ましいのではないかという意見か。

小川委員

発言される方のタイミングというか、例えば自分自身が感じている問題意識について、ある意味旬の時期がある。それが例えば今回も、任期の関係もあってこの任期ではこれが最後になると思うが、それ以降、例えば犬山市議会のように毎定例会でやる方向があるなら、その前提で考える必要があると思う。しかし今回も7月開催といったときに、3年生はもう受験準備に取りかからねばいけない時期だから、時期的に難しい。大学生にも難しい時期があると思う。時期を考えないと、学生なら学生に合わせたターゲットを絞った議会も考えられる。例えば年4回あるとすれば、高校生が参加しやすいのはこの時期、一般の方についてはこの時期などいろいろあると思う。

今後の方向として例えば年4回やるとか、年2回やるとか、それを先に決めた段階でどのような対象者に絞り込んでいくかを検討されたほうがよい。

三浦委員長

我々が参考にさせていただいた犬山市議会は年4回、定例会議に併せて開催されている。頻度としてはかなりの回数を提供されているのではという印象を持っている。1年間で何回開催するのかという小川委員の指摘のとおり、開催回数、それから対象者といったところを併せて考えていく必要があると思う。それを踏まえて適正人数、できるだけたくさんの方の話を聞きたいというスタンスは変わらないと思うので、そうした方々の意向をこちらとしてもきちんと受けとめるのに、1年間の回数、対象者は整理する必要があるのでは、という形で、このパートについてはまとめておきたいと思うが。

澁谷委員

私は広聴機能について明確に、ある程度地域井戸端会もやっていて、また今回の地域協議会との意見交換会、また市民一日議会もやったりすると、年間にどういうスケジュールでやっていくかを見ながら組んでいかないと。犬山市議会は年4回やっているが、地域井戸端会やほかの広聴機能をやっておられるかどうか私も不見識なのだが。その辺もバランスよく考えないといけないのでは。

私は市民一日議会については、聞いて委員会に振っている中で、

議会が意見を聞いたがどういう回答ができるかということも1回見てみないと。開くのはよいがほとんど成果としては形ができにくい案件もあったりして、その中で評価、この意見については何分の1は進捗したという評価が出てくればよいが、その辺を見ながら、もう少しスパンを広げるといふか。改選が終わって次の議会広報広聴委員会とバトンタッチして検討してもらったほうがよいと思う。

三浦委員長

ご指摘ごもっともだと思う。広聴機能としては市民一日議会だけでなくほかにも、地域協議会との意見交換会、これから形を変えて開催できるかどうか検討しなければならない議会報告会とか、井戸端会とかあるので、全体としての広聴機能をどのように担保するかは改めて整理をしながら進めていく必要があると思う。やりっ放しになるのが一番よくないので、そこは併せて整理する必要があることも、検討する必要があるということは踏まえておきたい。

次、4番目の配付資料について。それぞれ発言者の方々から資料配付の希望があり、その枚数や分量に対しての制限が今回設けられていなかった。その点については一定のルールをつくっておく必要があるかと反省するところだが、皆はどのように思われたか、感想があれば伺いたい。

川上委員

たくさんあったのは確かによいことだと思うが、それを要約したもので1枚ないし2枚としていただくのが1番よいかと思う。

村武委員

今回少し多かったと感じた。犬山市議会はどのような感じか。

小寺書記

直接は聞いてないが、ホームページを見た限りでは1部事務局にいたただければ、それを提供するということが書いてあるので、そこから見るには特に制限はかけてないような印象だが、確認はしたい。

三浦委員長

ほかに。これについても、何もなしになると事務局の印刷の負担などが大きく出てくることも懸念されるので、一定のルールは必要ではないかということで。どういったルールにするかはきちんと考えるべきだと申し送る形でまとめておきたい。

5番の開催頻度については、全体の市民一日議会開催に当たっては、こういう会を開いていただき非常によかったという意見が多かったと思う、それに付随するものと思うが、定期的を開催していただきたいとか、頻度を上げてほしいという要望が幾つか出ている。具体的に議員のほうにこうした会を継続すべきと回答した議員が5人いた。一定数は継続を希望していると受けとめられるが、開催頻度につい

では3番でも話に出たように、ほかの広聴機能とどうバランスを取りながら全体として活動していくかが重要な視点になってくると思うので、そこも含めて協議していただくようにしたい。

6番に移る。その他の運営について。発言者及び傍聴者の方々の意見として、本日の提言がその後どうなったか、議会だより等で報告してほしいというような、その後の対応をやはり気にされる、ぜひそこをしっかりとやってほしいという要望が多かった。一つ、今回の議会その後の動きに注目しているという発言もあって、こうしたご自身の意見を発することによってその後の議会の活動に注目していくというような、議会の関心度が高まるような発言も見受けられたので、その後の議会の関心度を高めることにも一定程度つながったのではと思っている。

執行部の出席があってもよいのではと、これは発言者及び傍聴者の意見の中にも出されていて、市の施策や市政というものに対しての意見を述べるのは全然ありだと思うが、市がどのように思っているのかを言う機会が提供されてもよいのではという意見もあった。

意見の振り分けについて。これは議員側からの意見だが、1人ここに書いている。先日来全員協議会で対応を皆にお諮りしているが、そうした流れが果たしてこれでよいのか、議論すべきではないかという意見をいただいている。総括的な部分になるのだが、こうした視点に沿いながら皆の意見を伺ってみたい。

川上委員

執行部の出席については、次期議会広報広聴委員会へはどのような形での送りになるか。

三浦委員長

それはここでの総括がどのように送られるかということか。この番号に従って意見をいただいた中で、ここにも執行部の出席はどうかという意見が実際に出ているので、それに対して委員の中で検討すべきではないかとか、そうした意見が出れば、そうした状況であると申し送る感じになる。

川上委員

執行部が確かにその場にいるのは非常に大事なことだと思う。執行部もきちんと意見を聞いたのだと発言者にわかるので。同時に執行部で答えられるもの、それについては検討の余地があるとか、検討させていただくといった答えが出ればより一層よいと思う。ぜひ参加していただくことが大事だと思う。

小川委員

市民一日議会の扱いと、こちらが出かけていく議会報告会で市民

から出された意見の扱い方。この間の全員協議会でもいろいろな意見が出されていたが、市民一日議会で出された意見だけを特別扱いして、これについてはどうするかと。先ほど執行部の出席も必要ではないかという意見があるが、そういう形にすると例えば、議会報告会もそのほうがより具体的な話のすり合わせもできるとすれば、いろいろなところに執行部の出席を求めるようなことになりはしないかと感じる。今回たまたま地域井戸端会や議会報告会ができなかったという背景もあって市民一日議会をということだったが、コロナの影響がなかったとしても、そういうことをやることによって例えば、地域協議会との意見交換や議会報告会をやっても、学生以下の年代が参加することはほとんどないが、そういう意見が聞けるという意味では大きな機会にはなったと思うが、出された意見についてどのようにこちらが捉えるかといったときに、あくまでも広聴機能を広げたのだということからすれば、特に市民一日議会に限って執行部の同席をこちらが求めるのはどうかと、私自身は感じる。

佐々木委員

私も小川委員が言われた内容が、市民一日議会の目的としてふさわしいと思う。というのは、執行部が出てきて今言われたことは現実にはこうなので違うと言え、それはもう答えになる。そうではなく、その答えは持ち帰って、回答も含めて議会の思いを伝えるということなので、その場を出してあげるのがよいのだろうが、それは市民一日議会とは目的が少し違うのかという気がする。

これまでの話の中でも出ていたが、今回地域協議会との意見交換会をしたし、議会報告会も何年もやってきて、なかなか定着してこなかった。その大きな原因は、きちんと答えを出してこなかった。質問した人に答えが伝わってなかったことだと思う。今回は傍聴者もおられたりしてわかりやすいやりとりが今のところはできている。だから評価が高いのだと思うが。この出された質問に対してどうわかりやすく答えていくかが、最終的に評価になっていくと思うので、それが市民一日議会の一つの目的だし、成果になっていくと思う。市民一日議会にかかわらず、地域協議会との意見交換もそうだし、議会報告会もそうだし、答えをきちんと伝え、市民に示していく、この手法をこれからの作業でしっかりやっていく必要がある。

執行部を呼べばすぐ答えが出るかもしれないが、市民一日議会含め広聴機能とは少し違う気がする。

川上委員 今言われた意見でよいと思うが、私はせつかくなので執行部もお聞きになったほうがよい、そのときの雰囲気があるので。お聞きになる場所をつくられてもよいのではと考えている。

佐々木委員 市民一日議会は本会議場でやるので、ぜひ所管の執行部には意見を聞いてもらう。これも市民一日議会の目的だと思うので、しっかり聞いて、その後多分答えを求めることになると思うので、こういう意見があるというのを認めていただくのは、むしろ必要だと思う。

笹田委員 市民一日議会と地域協議会との意見交換会、地域井戸端会、広聴機能をどんどん広げていく一環でやっているが、市民からの意見を差別してはだめだと思う。今それに近いというか。市民一日議会だけ丁寧にやっていくルールづくりになっているので。地域協議会の意見はどうか、今後地域井戸端会の意見はどのように吸い上げていくのか、しっかり対等にしないと。広聴はここで言わないと通用しないという形にもなり得る可能性がある。今回これをやった上で一番課題が見つかったのはそこかと思っている。

今後広聴機能を広げる上で、どの会も、市民の意見は公平公正に扱って、議会に取り上げていく形をつくらないといけない。全ての面において議会が開催するわけだから、執行部に聞いてもらうのはよいと思うが、執行部にそこで意見を求めたり、話をしてもらったり、地域の人がその場で執行部に質問したりとか、そういうことをすると議会がやっている意味がない。その辺はしっかりルールづくりをして、やるべきかと思う。

小寺書記 執行部の出席のことについていろいろ意見があったので補足させていただくのだが、執行部の中からも、傍聴してよいのかといったご意見は結構、議会事務局に寄せられていた。ご配慮いただいた形にはなるのだが、傍聴者がたくさん来られることが想定されるので執行部には自席で見ていただくよう今回お願いしていた。いつもの定例会議と同じように市民一日議会の様子も自席のパソコンで見ていただける環境は整えさせていただき、またどういった発言が出るかも事前に全職員に庁内ホームページで周知させていただき、それに基づいて問い合わせもあり、各々で見ていただいていた。

また、終わった後のY o u t u b eのリンクも皆に周知して、後でもごらんいただけることも周知している。ただ、その場においていただいたほうが形として見えるものもあるかと思うので、その部分

三浦委員長

も併せて補足させていただければ。

この点については笹田委員からもご指摘があったとおり、どういう場面で伺った意見も、同じ意見であることに変わりないので、全体での広聴機能の整理をする必要があるのだと思う。それは先ほどの話にも重複するが、議会報告会や地域井戸端会、地域協議会との意見交換会、あとは読者アンケートもそうだが、さまざまな形で意見を伺える機会を提供しているので、そうしたところでどのように意見を取り扱っていくか、その流れもこういう機会を通じて全体感を見直すことも必要ではないか、という形でまとめておきたい。加えてほかにあるか。

( 「なし」という声あり )

今いただいたご意見で、もちろんここで答えを出すのはなかなか難しいが、いただいた意見を踏まえて委員会の中で、こうしたところの協議は必要ではといった段階までは本日できたと思うので、そうしたところで次期議会広報広聴委員会に送って、今後の広聴機能の強化、並びに市民一日議会の継続開催の検討に当たって配慮していただきたいということで、申し送りたい。よろしいか。

( 「はい」という声あり )

## (2) その他

三浦委員長

市民一日議会について、そのほかあるか。

( 「なし」という声あり )

## 4. 地域協議会との意見交換会について (資料なし)

### (1) 今後の方針

三浦委員長

私から説明申し上げる。五つの地域協議会との意見交換会の第1回目が終わった。今回は各地域協議会に班で出向いて行って、そのやり方、時期、開催方法についてそれぞれにご検討いただき、柔軟に対応していく方針で進めさせていただいた。さまざまに意見をいただいた現状はあるが、時間の関係やテーマを絞り切れなかった、絞らなかったということで、意見を拝聴するにとどまってしまった、そこまでしか至らなかったという現状にあるかと思う。したがって、今議会としてどう対応していくかまでは至っていないのが現状かと思う。一方、各地域協議会からは継続的な開催を望む声を多々伺って

おり、そうしたところも踏まえて今後の進め方について、各班にそれぞれ議会広報広聴委員会委員が割り振ってあるので、進め方について少し振り返りながら意見を伺っておきたい。開催と今後の進め方について。

川上委員 弥栄については特に、やっぱりかというテーマだったのでそれなりの対応ができたと思うが、最終的に各議員から思いについての発言をいただいたのが非常によかったと考えている。各議員が発言をして、意見交換会に関する意見を出すのが必要だと思っている。

三浦委員長 私は弥栄も傍聴させていただいたのだが、継続的にぜひ開催してほしいというご意見もあったように思うが、その点は何かほかにあるか。特にないか。はい。ほかの地域はどうか。

野藤委員 テーマ設定も今後の課題だと思うが、このたびは一応すり合わせをしてからテーマを設定した。その辺のこととか、地域協議会のメンバーがかわったりしたときには、新たな意見がまた聞けるのかと思う。ほかとの絡みがあるので何回もはなかなか難しいかもしれないが、年1回はされたほうがよいかと。

三浦委員長 浜田の場合は新しいメンバーも入られたこともあったのと、なかなか一つのテーマに絞り切れないという意見もいただいて、各地域の活動を踏まえてご意見ご要望について情報交換をするという感じになったのだが、時間はそれほど長くなく、議員からご意見に対しての感想だとか、お戻りする時間も十分に取れなかったと、私も浜田に参加したので反省点としてはあると思っている。

ただ、ふだんなかなか発言する機会がない方も一様に発言されたとのことで、各地域の状況を確認できたということでは一つ成果もあったのではないかと考えている。ほかはどうだろうか。

小川委員 担当させてもらった三隅については、事前の議会広報広聴委員会の中でも少し議論になったが、テーマを設定する段階から膨大な、広範囲にわたるテーマが出てきて、これでできるのだろうかというのがあったので、それ以降正副班長が意見交換に行って、まずテーマを絞った。地域協議会との意見交換会をこれから恒常的にされるのだろうかという思い違いもあって、何度かキャッチボールしながら始めたので、何となく当日の進め方も含めて、そういうことがあってできたと思っている。そのときに話したのは、今回の地域協議会との意見交換会を設定した目的は、あくまでもコロナの影響で今ま



でやっていた広聴ができない中で、ある程度意見が集約されている地域協議会の皆と意見交換することによって、多少地域の実情なり問題点が聞けるのではということの設定されたという経過もあったので。それでやってどうだったかだが、地域からはできる限りやってほしいというのは、二元代表制の市長とは結構意見交換をされているが、議員側とは初めてだったので物すごく新鮮に思われて。執行部側とだけでなく議員側ともこういう機会があってよいのではと実感されたと思う。回数についても申し送りの中で検討していただき、できるだけ回数を増やしながら地域協議会と議会との関係もよりよい形にしていく必要もあると、やってみて思った。

三浦委員長

三隅は開催回数も、年4回くらいやってもよいのではないかというような意見を当初からいただいていた。そうした開催頻度とか、コミュニケーションの取り方は、引き続き協議する必要があるかと思う。限られた時間の確保しかできない中で、伺うことも十分ににくい、その中でお話しするのも難しいという課題も見受けられたので、その反省点はしっかり次に送って。せつかく入り口が見えた地域協議会との関係性をとまらないように、継続して関係構築ができるようにぜひ次回以降協議していただきたいと申し送りたい。

佐々木委員

僕は旭と金城に出させてもらって、この地域協議会との意見交換会という一つの広聴機能は、ほかとは少し違うのかという気がして。というのも今も意見が出ていたが、今後もやってほしい、つまり継続して取り組むことによって何かしらの成果が出ると感じていて、旭も金城も委員から、ぜひ続けてほしいという要望があるので、1回1回答えを出すのではなく、継続する中で何かを見出していくことになるのかと感じた。議会でないと言ってもらえないことも出ているので、その辺をしっかりと機能させていけば、地域協議会とのよい関係をつくっていけると感じる。

笹田委員

地域協議会との意見交換会は、大体どこも継続してほしい、回数を増やしてほしいという意見が多くを占めたため、地域協議会にとってもよい会だったのだろうと想定できるが、今回、自治区制度がなくなって自治区長がおられなくなって、まちづくりセンターにかわって、郡部は非常に不安な中での開催だったので、今度は議会のほうが地域をしっかり見て回るという意味でも、非常によい機会だと思うので、年1回ではなく回数を増やして、議会は地域全体を大事

にしているのだという姿勢にもなるし、地域のことも理解できるので、私は増やすべきだと個人的に思う。それが旧那賀郡、旧浜田市が一つになるイベントになれば、なおさらよいと思うので、回数を増やしていくべきだと思う。

佐々木委員

あえて言わなかったが、笹田委員が言われたことで旧那賀郡の方々の生活を伺って、非常に厳しいものが迫っている感覚をかなり受けた。議長団が出て最初に挨拶するが、そういった意見を聴いて最後に総括的に意見を言わせてもらったのだが、非常に生活そのものが厳しいという意見をたくさんもらって、これはぜひ継続していく中で、議会として皆の声を反映できることが可能だとも感じたので。地域協議会の皆もそれをかなり期待されているのではと感じた。

芦谷委員

今も出たように継続とか回数を増やすということはよいが、広聴機能全般の間口が大き過ぎる。地域協議会は市長が任命した機関であり、地域の実情を市長に反映するものだと思うので、地域協議会に活躍してもらう場合には市長部局とも連携してやる必要があると思っている。また、地域間のアンバランス。小さい地域もあるし浜田のように大きいところもあって、必ずしも五つの地域協議会だけで全部カバーできると思わないので、大小をカバーすることを考えないと。五つやって万々歳ということにはならない気がする。これはぜひ次の議会広報広聴委員会へ送って、検討してもらいたい。

三浦委員長

浜田の地域協議会からは、地域協議会単位ではなく、もう少し細分化された単位で話を聞いてもらったほうがよいのではということ、前副会長から事前協議のときに伺った経緯もある。あとは、これは三隅地域協議会の会長あるいは副会長からだったか、回を重ねていくときの議員側の顔ぶれが毎回変わったほうがよいか、継続的に同じ顔ぶれで協議を進めていきたい、協議は積み重ねなのでという意見もあった。

今さまざまにご意見をいただいたが、地域協議会との、地域との意見交換会をどのような形で進めていくのか、回数、対象、団体、それも地域協議会との意見交換会から少し大きくはなるが、この開催については地域からの要望を踏まえて、適切な開催方法を引き続き検討していただきたい。非常に重要な会であったということで振り返っておきたい。ほかにあるか。

小寺書記

今回、全員協議会で各班、この地域からこのような意見が出たと

共有しているところで情報をとめている状況だが、各地域協議会にはどういった形でお戻しするかを考えないといけないと思っている。今の意見だと継続的にということも含めてにはなると思うが、こちらからも皆からご意見をいただければ。

三浦委員長

いかがだろうか。継続的なコミュニケーションをぜひ取っていきたいという意見が多かったと思う。それから、なかなか時間やテーマを絞り込めなかったという条件のもとで交わした意見交換で、今すぐに何かをお戻しする状況にないこともあるかと思うので、継続した会を協議を重ねる中でいただくご意見を議会活動に反映していくとか、そうしたところで今後も継続して、そうした意見交換を進めていきたいという形で一旦お戻ししておくのがよいかと思っているがどうだろうか。

野藤委員

笹田委員や佐々木委員が言われた、自治区制度が廃止になって自治区長がいなくなった。諮問機関である執行部が出てくるのだが、議会と執行部と、両輪ということで、その片方とはできているが議会とは初めてきちんとした形で意見を聞いてくれたという、そういう雰囲気がある。だから継続的に、年に1回でも2回でも、していくことは地域協議会の地位を高めるというか。そのように地域協議会の方も思われるし、そういう意見を聞く場があるとなると、より地域からの声をきちんと吸い上げて発言されると思う。だからこれを続けていくということが、即成果は出なくても必要だと思う。

小寺書記

次の委員会に申し送ることにも係ってくると思うが、今回改選があって委員の顔ぶれも変わる。継続という声がある中で、例えば10月以降のところでは第2回目の開催も検討するように申し送るのかを確認いただければ。

三浦委員長

前向きに今年度以降、第2回の開催に向けてという、もう少し具体的に踏み込んで戻してはどうかという提案なのだが。そこまで踏み込んで申し送って逆によいかというところもあるが。現委員の中ではおおむね、地域の方々の声を伺う中で、あるいはやってみて、継続するべきではないかという意見が多いようには思うが。であれば、これは私個人の意見を申し上げてよいのかどうか、改選があってその後の委員の顔ぶれで地域協議会に改めて伺いながら、話をしてみようということでもよいかと思うのだが。

佐々木委員

先ほど多分言われたのではと思うが、次期改選後に申し送ること

三浦委員長

で、地域協議会の皆にどうお返しするかということは言われたか。

地域協議会には委員長の総括というか継続してコミュニケーションを取っていきたい、今回はまだ時間や、テーマの絞り込みなどがなかなか難しい中での議論にとどまったため今すぐ何かについて回答を申し上げる段階にないので継続的にこうした会をしていきたいと思っているというところで一旦戻すということだったのだが、もちろんそのスタンスで、戻していることを申し送らないといけないのだが、小寺書記の提案はそれに加えて、ついでには改選後の今年度内に新しい顔ぶれで第2回の地域協議会との意見交換会をぜひ開催させていただきたいと事前に申し伝えておくというところまで踏み込むか、その手前でとめておくか。

第2回を今年度開催するという意向をどうするかは次期委員会に委ねるか、我々のところで開催すべきではというところまでは総意としてまとめて申し送るかという形。先ほど申し上げたのは、顔ぶれも変わる中で、今年度内に1度、2回目を開催してもよいかと私個人としては思うが、皆の意見を伺いながら決めたい。

芦谷委員

改選後のことを言うのははばかれるが、次の議会広報広聴委員会の中で市民一日議会のことも含め、ありようなり回数なりは判断してもらったほうがよい。

三浦委員長

つまり、現在は継続をするべきと総括はするが、改選後の委員会において2回目以降の開催については改めて協議させていただくという回答がよいということか。はい。ほかにはどうか。

川上委員

次期委員会に対しては、行うべきだろうという意見で送ってもらって、判断は次期に任せるしかない。

三浦委員長

第2回も開催すべきと、次期委員会に申し送りしている、という内容でお戻しする感じか。はい。

小川委員

結論はそれでよいと思う。市民一日議会の見方についても議会広報広聴委員会の中での議論とそれ以外の議員との認識の違いが相当あるように思う。したがってこのメンバーが次の議会広報広聴委員会に1人でも入れば今までの経緯が多少わかるが、誰も入らなかった場合には、過去の経緯やこの1年間、2年間の取り組みがわからない中でどう判断するかといったときに、申し送られた中身を考える中で判断せざるを得ないのが実態だと思うので、一応申し送りとしてはできればやってほしいという程度で送って、あとは新たな議会

三浦委員長

広報広聴委員会の中で審議してもらうしかない。

ほかにはどうか。では、先ほど申し上げた形で次期委員会に申し送る。それと同内容のものを各地域協議会にはこの段階で一旦お戻ししておくということで、取り計らいたい。

## (2) その他

三浦委員長

ほか地域協議会との意見交換会について、ご意見があれば伺う。よろしいか。

( 「なし」という声あり )

では次に移る。

## 5. その他

三浦委員長

ほかに皆から何かあるか。よろしいか。

( 「なし」という声あり )

では次回委員会の日程確認をお願いします。

《 以下、日程調整 》

三浦委員長

では次回は16日の10時をお願いします。

小寺書記

9月16日木曜日、午前10時から全員協議会室で行う。議題は陳情審査のみとさせていただこうと思う。ただ、それまでのところで何かあれば追加するかもしれない。また27日についても引き続き委員会をやろうと思うので、よろしくをお願いします。

三浦委員長

ちなみに10時でよいか、もっと早いほうがよいか。

《 以下、日程調整 》

では、意見陳述を希望されている方もおられるとのことで、通常の委員会開催時間である10時ということで。当初どおり9月16日10時から、場所はこちらで。よろしくをお願いします。

ほかにあるか。

( 「なし」という声あり )

以上で議会広報広聴委員会を終わる。

[ 15時 2分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 三浦 大紀